

日経平均株価

3万8596円47銭

▼36円55銭(前日比)

TOPIX

2724.69

▼0.85(前日比)

2024  
6/24  
月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



## 今年の夏もかなり暑いぞ!

### 梅雨入りからサマーストックに注目



#### 集中豪雨にも警戒感高まる

6月も下旬に入り気温が急速に上昇してきた。気象庁による夏の天候の見通し(6月～8月)によると暖かい空気に覆われやすいため、気温は全国的に「高い」とし、梅雨の時期(北・東・西日本では6月から7月)の降水量は、西日本太平洋側では平年並か多いとしている。地球温暖化や春まで続くエルニーニョ現象の影響などで、全地球で大気全体の温度がかなり高いとしており、梅雨入りから名実共に夏の到来へ向けてはサマーストックが注目されることになりそうだ。

この数年の夏の特徴としては2019年までは平年並みが続いたが、2020年以降は「高い」もしくは「かなり高い」状況が続いており、今年も現在の気象情報で世界最大手のウエザーニューズ(4825)の存在感が高まり、コンクリート2次中堅でマインホールからラインホールからラックへ製品展開するイトーヨーギョー(5287)や洋傘トップのムーンバット(8115)などが注目されよう。

#### 今年の夏も暑そうだ

梅雨が明け



この他では、冷凍冷蔵設備の需要増加で、中野冷機(6411)、スキンケアで資生堂(4911)やマンダム(4917)、ハーバー研究所(4925)、空調ウェアでワークマン(7564)なども注目されそうだ。

この他では、冷凍冷蔵設備の需要増加で、中野冷機(6411)、スキンケアで資生堂(4911)やマンダム(4917)、ハーバー研究所(4925)、空調ウェアでワークマン(7564)なども注目されそうだ。

6月第2週の動意銘柄

M&A関連が値崩す

「新しい資本主義」を嫌気

週明け10日、M&A総研ホールディングス(9552)やM&Aキャピタル(6080)、日本M&A(2127)などM&A関連が軒並み値を崩した。新しい資本主義のグラ

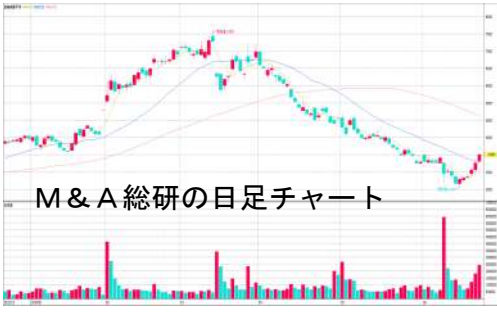
数料体系の表現がなされたことから収益悪化懸念が台頭した。

サン電子米投資会社TOB

サン電子(6736)が一時ストップ高で上場来高値更新。届出書で米投資会社トゥルーウインドキ

ヤピタルが同社株にTOBを実施することとが明らかになり、TOB価格4400円にサヤ寄せして水準を切り上げた。買い付け予定数は423万9500株で、TOB完了後の所有割合は約19%となる。経営陣との対話を通じて企業価値と株式価値の向上を支援、値上がり益や配当金を得ることが目的。

クラダシ優待導入 クラダシ(5884)がストップ高。保有株式数に応じて同社サービスの「Kuradashi」で利用できるギフトカードを贈呈する株主優待制度導入を発表した。100株以上を保有する株主に2000円分、2000株以上では4000円分を贈呈する。



版で、事業継承における民間の仲介業者に対して売り手と買い手が納得できる手

シンバイオ臨床好結果

床試験で第1例目が登録されたと発表し

11日、シンバイオ製薬(4582)がストツプ高。米国で実施中の造血幹細胞移植後のサイトメガロウイルス感染症(CMV感染症)患者を対象とした注射剤ブリンドフォビル(BCV)の第IIa相臨

た。造血幹細胞移植後のCMV感染症は造血幹細胞移植後のウイルス感染の中で発症率が最も高く、未充足の治療領域で医療ニーズが高いとしており、開発進展へ期待が高まった。

ビユーティガレージ(3180)が大幅反落し年初来安値。24年4月期の連結決算は営業利益17億円(前の期比25.3%増)と従来予想を上回り大幅増益で着地したが、25年4月期は18億1600万円(前期比6.8%増)を見込んだことが成長鈍化ととらえられ失望売りを誘った。第三DC準備の諸費用計上などを織り込んでいる。

D&Mカンパニー(189A)が東証グロース市場に新規

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は3週ぶりに反落し。日経平均は前の週から218円下落しています。植田日銀総裁会見から金融引き締めへ警戒感が再燃、政局不安で欧州株が急落したことから、週初に700円超下落したが、4兆円割れりは緩慢で戻り売りに引けており、重さが意識。3万8000円ボックス相ありますが、週明けの主な意見、出(PCR)発表着感が強そう。調整一巡、底入れ銘柄狙う。OPPANなど高値銘柄を利益確定しており、調整一巡から出直る半導体関連と底入れした中小型グロース株を狙いたいと思います。 花咲翁



FPパートナーS安

12日、FPパートナー(7388)がストップ安。東洋経

济オンラインが「生命保険業界のビッグモーター」同業者からそう呼ばれていると報じた。保険会社が自社の保険商品を優先的に取り扱ってもらうために同社に過剰ともいえる便宜供与を図っている。



# 電子部品株が高い

## アップルがAI用ソフト発表



70)など電子部品株が高い。アップルが人工知能(AI)用ソフトウェアを発表したことが好感され、米国市場でアップル株が7%を超え大幅高になったことを受け、アップ

TDK 12日、(676)が大幅高で年初来高値を更新したほか、村田製作所(6981)、アルパイン(67

13日、ジェイテックコーポレーション(3446)が大幅に反落した。12日の取引終了後、24年6月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で26億3000万円から21億6700万円(前期19億8000万円)へ、営業利益で5億4000万円から未定(同3億600万円)とした。ラ

器開発事業における売上高の見込みが予想数値を38.9%下回っている。アップコン(5075)が3連騰。同社は12日の取引終了後、25年1月期の第1四半期(2月(4月)決算を発表、連結営業利益で前年同期比3.6倍の2億1200万円となった。2年連続で大型案件の受注を獲得している。大阪・名古屋で企業説明会などを行いアップコン工法の知名度・認知度向上を図った。

# Jテック・C利益未定に

ル製品向けに部品供給を行う関連銘柄に買いが向かった。同社や村田製作所については国内証券会社も目標株価引き上げもフォロワーになった。

### サンバイオ「SB62」審議

サンバイオ(4592)がストップ高。厚生労働省が開催する薬事審議会再生医療等製品・生物由来技術部会で、再生医療等製品「アクトゴ脳内移植用注(同社の脳疾患治療薬「SB623」の製造販売承認の可否、条件と期限の要否、再審査期間の指定の要否)について審議されることから、「SB623」の製造販売承認への期待が高まった。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

# 松井証券の一日信用取引

手数料 0円 金利・貸株料 0~1.8%

取引コスト

プレミアム空売り

独自サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック



# ANYCOLORがS高

## 2割増益で6.4%の自社株買い

拡大へ向け海外V T

注力している。

Uberビジネスでは英語圏におけるV Tuberビジネス「NIJISANJI IEN」の拡大に注力している。



13日、ANYCOLOR(5032)が急伸、ストップ高まで買われた。12日の取引終了後、25年4月期の業績予想を発表、営業利益で19.7%増の148億円と大幅増益を見込み、併せて発行済み株式数の6.4%にあたる400万株、75億円を上限とした規模な自社株取得枠を設定したことで、買戻しや押し目買いが優勢になった。業容

## WSCOPE計画超過

週末14日、ダブルスコップ(6619)がストップ高。25年1月期第1四半期の連結決算は経常利益は9億3700万円(前年同期比54.4%減)と大幅減益で着地したが、通期計画の8億円(前期比82.6%減)を超過した。為替差

## MacbeePストップ安

MacbeeP(7095)がストップ安で年初来安値。25年4月期は売上高480億(前期比21.0

## 公開価格67%上回る

Chordia Therapeutics(190A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格153円を66.7%上回る255円で初値を付けた。RNA制御ストレスを標的とするがん治療薬の開発などを行う。

# 購読会員募集中！

<https://marketpress.jp/subscribe/>

## 株式市場新聞では、購読会員を募集しています。

## 短期値幅取り候補銘柄！！



【正直じいさんの株で大判小判】でお馴染み!!  
花咲 翁氏が独自の分析で値幅取り候補銘柄を紹介。

株式市場新聞  
www.marketpress.jp



企業観察 大和ハウス工業(1925)

# 米戸建住宅5割強伸ばす

大和ハウス工業(1925)は26年度(27年3月期)に連結売上高5兆5000億円(24年3月期5兆2029億円)、営業利益5000億円(同4402億円)を目指す中期経営計画達成に向け、戸建住宅、賃貸住宅、商業施設、事業施設の主力4事業の安定成長と収益力を強化している。戸建住宅は米国の躍進で他3事業に続いて売上高1兆円大台乗せを果たしたが、さらに需要地で開発を拡大、中計最終年度に販売戸数を1万戸へ5割強伸ばす計画で、国内は分譲住宅強化により底上げを図る。賃貸住宅は相続税対策

## 主力4事業安定成長と収益力強化

ニーズが底堅く建て売りも伸び始めており、受け渡し物件の維持管理を含めて着実に取り扱いを拡大していく。商業施設は2月に横浜市などみらいで世界初のゲームアートミュージアム、地域熱供給プラント、オフィス併設した大型開発に着手したが、今後も大型案件をターゲットにしながら、ビズリブネスによる再開発も推進。事業施設は物流の2024年問題へ対応するとともに「データセンターや半導体工場のほか、健康食品工場などのニーズも取り込む」(会社側)構え。

ラミック固体電池「CeraCharge」の次世代品として、従来品の約100倍のエネルギー密度の全固体電池用材料開発に成功したと発表した。酸化物固体電解質とリチウム合金負極の採用により、量産中の全固体電池よりもはるかに高いエネルギー密度を備えた新材料設計を開発、熱安定性が高く、スマートウォッチなどの各種ウェアラブルデバイスのほか、既存のコイン電池代替も視野に開発を進めていくとしている。

伊勢化学工業(4107)がストップ安。東証株式の信用取引による新規売り付け買い付けに係る委託保証金率を18日売買分から50%(うち現金20%)にするると発表したことが嫌気された。

公開価格50%上回る  
インテグの初値  
インテググループ(192A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格3960円を50・0%上回る5940円で初値が生まれた。M&A仲介業を行う。

# 笑美面がストップ高 第2四半期上振れ着地

週明け17日、笑美面(923)がストップ高。24年10月の第2四半期累計決算は営業利益で従来予想の3100万円に對して6500万円と



MSOL急失速し減額  
マネジメントソリユーシオンズ(703)がストップ安。前24年12月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益8億4600万円(前年同期比5・5%増)と第1四半期の38%増益から急失速、通期予想を35億円から27億円(決算期変更で比

TDK大幅高で最高値  
18日、TDK(6762)が大幅高で実質最高値更新。充電可能なオールセ

日本パワーアスニング(5950)がストップ高。無配としていた24年12月期第2四半期末配当について、20円配当を実施すると発表したことがポジティブサプライズになったへ。

伊勢化学工業(4107)がストップ安。東証株式の信用取引による新規売り付け買い付けに係る委託保証金率を18日売買分から50%(うち現金20%)にするると発表したことが嫌気された。

6月第3週の動意銘柄

週明け17日、笑美面(923)がストップ高。24年10月の第2四半期累計決算は営業利益で従来予想の3100万円に對して6500万円と

TDK大幅高で最高値  
18日、TDK(6762)が大幅高で実質最高値更新。充電可能なオールセ

日本パワーアスニング(5950)がストップ高。無配としていた24年12月期第2四半期末配当について、20円配当を実施すると発表したことがポジティブサプライズになったへ。

伊勢化学工業(4107)がストップ安。東証株式の信用取引による新規売り付け買い付けに係る委託保証金率を18日売買分から50%(うち現金20%)にするると発表したことが嫌気された。

上振れ着地した。既存コーポレートネットワークの生産性改善により営業費用が当初予想を下回った。

比較(はない)に下方修正した。人材獲得競争激化と組織急拡大による人員管理への影響を考慮した。年間配当を18円から30円(前期18円)に引き上げたが反応薄。

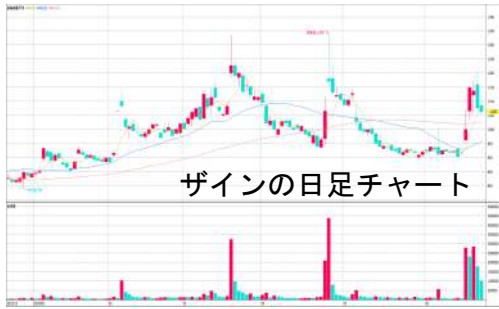
4月21日に創立60周年を迎えたことを機会とする株主還元策としているが、年間配当は22円50銭(前期無配)となり、前週末終値ベースの配当利回りは18・6%の高水準で、利回り妙味から買いを集めた。

伊勢化学工業(4107)がストップ安。東証株式の信用取引による新規売り付け買い付けに係る委託保証金率を18日売買分から50%(うち現金20%)にするると発表したことが嫌気された。

# ザインがストップ高

## 光半導による高速情報伝送

18日、ザインエレクトロニクス(6769)がストップ高。同社は17日、高速情報伝送技術を一層進化させることにより、データセンタなどでの活用が見込まれる光半導体ソリユーションを提示すると発表した。第1弾として、データサーバーのデータ伝送の次世代標準であるPCI Express 6.0に対応したマルチモ



ドAOCソリユーション、第2弾として次世代のPCI Express 7.0に対応したソリユーションを立ち上げる。

## FPパートナ金融庁調査

19日、FPパートナ(7388)がストップ高。一部メディア報道を受け、12、13日と連続ストップ高と急落していたが、この日は同社と販売を委託している生保各社との取引を巡り、金融庁が実態調査に

乗り出したことが伝わり、改めて投げ売りが膨らんだ。過剰な便宜や実質的な利益供与の疑いが強まれば、立入検査に踏み切るといふ。  
東京ボード都知事選関連  
東京ボード工業(7815)がストップ高。東京都知事に3選を目指して

20日、サンケン電気(6707)が一段高。旧村上ファンド系のエフイッシュモ・キャピタル・マネージメントがサンケン電気株式を20.18%まで買い増したことが明らかになった。これまでの保有割合は19.16%

## サンケン旧村上系買増し

公開価格14%上回る  
WOLVESの初値  
AND(194A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格770円を13.6%上回る875円で初値が生まれた。

公開価格6.5%下回る  
タウンズの初値  
A(197A)が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格460円を6.5%下回る430円で初値が生まれた。同社は体外診断用医薬品、研究用試薬などの開発、製造と販売事業を行う。

立候補する現職の小池百合子氏が公約として木造住宅密集地域の解消促進を掲げたことから木質廃棄物の回収を手がける同社が都知事選関連として人気を集めた。  
公開価格9%上回る  
ライスカレーの初値  
ライスカレー(195A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1420円を9.9%上回る1560円で初値をつけた。SNSデータ

### 転ばぬ先のテクニカル

#### エヌビディアに警戒警報

先週の東京株式市場では日経平均が反落、TOPIXは3週連続落となりました。上値は重く、4月後半から続くレンジ相場内での展開。21日のBloombergに以下の記事が掲載されていました。「S&P500種株価指数は最高値更新を繰り返しているが、株価を押し上げている数社の大手ハイテク企業を除けば、エンジンはガス欠状態のように見える」。その筆頭銘柄であるエヌビディアの株価はナスダック総合指数同様に最高値で陰線包み足となりました。このチャート形状は警戒警報発令です。21日の米国市場はクワドルプルウィッチング、すなわちメジャーSQで、今週以降は軟調に推移する可能性があります。その場合、日経平均の下落は避けられないかもしれません。プライム市場の売買代金が3兆円台と低調で、長らく売られてきたグロース市場で個別物色が活発になるのではないかと日々勇太朗

一次診療から高度医療まで対応可能な動物病院運営、その他周辺事業(トリミングサロン運営、動物病院向けシステム開発、獣医療関係者向け教育コンテンツ配信など)を行う。  
公開価格と同値  
ポストプライムの初値  
PostPrime(198A)が東証

グロース市場に新規上場、公開価格450円と同値で初値が生まれた。同社はPostPrimeの運営を行う。

# 好決算期待銘柄に軸足

先週の日経平均は週明けの700円余りの下落から回復の動きが続き、週末には上値が重くなり、出来高が薄く、上値を迫るには出来高が膨らむ必要があります。主な買い手の外国人が日銀の金利引き上げや日本の景気回復が予想よりも遅いことを警戒し、とりあえず日本株を手仕舞いして様子見を決め込んでいますので、日経平均が更に上値を迫る可能性は当面低い見なければなりません。

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽の株式情報

主力株が足踏みする中で、中・小型の好決算見通し銘柄にホコ先が向いているようです。急伸し始めたMCJ(6670)は、

## MCJとレオンに打診買い

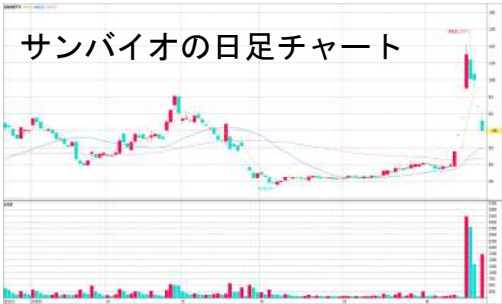
ソコンの需要の回復が業績を押し上げるものと見られます。軸足を置くべきかと思つて

戻り待ちの売りで目先は一服する可能性もありますが、相場の流れが大きく変化したことを考えると更に値上値を迫るものと思われず。とりあえず打診買いをして押し目を更に拾う姿勢でいいでしょう。同様に動きが目立ったのはレオン自動機(6272)です。これも高値を更新し局面を一変させました。両銘柄とも手頃な株価水準で、今後、上値を迫る可能性が高く注目です。さて、ソフトバンクグループ(9984)ですが、21日が株主総会でした。期待されていた自社株買いについて「小さなこと」と発言したため、株価は1万円割れとなりまし。一旦、利益確定すべきでしょう。当面は主力系よりも好決算期待銘柄に軸足を置くべきかと思つて

して買われまし。一気には高値更新しており、

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>

## サンバイオがS安「SB623」出荷できず



が条件・期限付きで承認されたが、今後の治療効果をみながら改めて評価を続けるため、当面は出荷できないと伝わった。SB623の製造販売承認の可否が専門部会で審議されることなどが明らかになって

サンバイオ(4520)が92)が安。厚生労働省専門部会で再生医療製品「アークゴ(23)ー

## サイボウズ上方修正

から、承認への期待から株価はストップ高を交えて2倍強に急騰していた。

週末21日、サイボウズ(4776)が急伸。ヘッドウォータース(4011)と共同で生成AIを用いたサービスを展開していくと発表された。同社は大手企業向け提案活動や経営課題のコンサルを行い、ヘッドウォータースはAIや生成AIを用いたソリューションを提供、今後は共同で生成AIを用いたDX内製支援サービスを展開する。

### 公開価格8%下回る

#### MFSの初値

ジャパンフーズ(2599)がストップ高。丸紅系のJAFHDがTOB価格を1994円から2449円に引き上げたことで、サヤ寄せして水準を切り上げた。TOB成立の確度を高めるため、買い付け期間も6月21日から7月8日まで延長している。

情報戦略生成AI共同展開

情報戦略テクノロジ(155A)が総合ASEの開発・提供、不動産投資の提供を行う。

MFS(196A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格400円を8.0%下回る368円で初値が生まれた。同社はオンライン住宅ローンサービスのモダチェッカーの開発・提供、不動産投資の総合ASEの開発・提供を行う。



# チャート から読む 騰落銘柄

## フリー (4478)



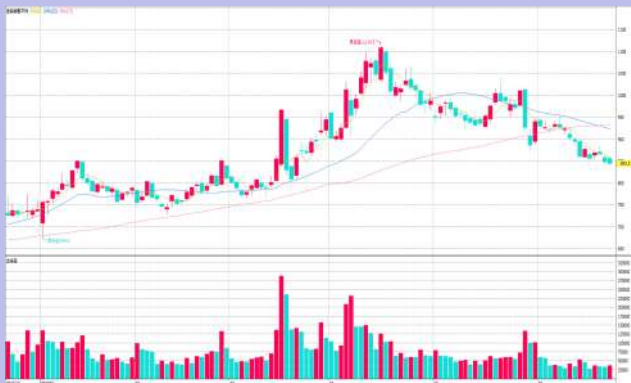
3月21日に4020円まで急騰した後は長らく調整していたが、6月6日に2190円の安値を付けたあと下げ止まる。25年6月期は中堅企業から追加契約が大幅増の見込みで上場後初の黒字化期待も支援。

## アシックス (7936)



1Q好決算を好感、急伸のあとも上値追いが続く。高進捗で上振れ期待強く、6月末1対4株式分割と実質増配を予定。信用倍率0.98倍の好取組みも株価を押し上げ、パリ5輪に向け青空相場を一段高へ。

## 東京電力HD (9501)



4月15日に1114.5円の高値更新後に急落し、25日線割れると850円割れまで値を崩す。柏崎刈羽原発7号機の再稼働に不透明感多く、今年1月安値679円まではフシはなく下げ継続の可能性も。

## 三井E&S (7003)



25年3月期は2桁減益見込み、配当を未定としたことが痛手。3月に最高値2898円を付けてから調整が長引く。日足に続いて週足も陰転、1400円台を割り込めば、1000円トビ台までの下落も。

※チャートは日足



# 星野三太郎の株街往来

## ～生温い改革姿勢～

今年も早いもので1年のうちの半分近くが過ぎた。日経平均では3月の4万1087円75銭を付けたあとに調整したとはいえ、3万8000円台は昭和のバブル時の高水準を維持しているのだから企業業績や需給など様々な要因があるにせよ底堅いとはいえるのだろう。

ただ積極的に上値を買えない気分させるのは政治資金規正法の改正など絡む政治家の体たらくだろう。政治には金がかかるといえる。収支内容を公表して正確かつ明瞭に会計処理すればいいことだ。加えて政党交付金が国の税金によって支給されるが、我々のような零細企業については融資の審査以前に門前払いされてしまう。良い政治をするにはお金が必要というが、こちらでは1円たりとも交付金なんてなく、事業に関わっている方々の善意で事業が成り立っている。

そのように思うと与野党ともに生温い改革姿勢に腹が立つてしまう。希望がない政治が株価に反映されている。



## New product

**麒麟** 氷結無糖 白ブドウ発売  
余計な甘さないクリアなおいしさ



氷結無糖 白ブドウ

今回の、夏にスッキリ飲めるフレーバーとして白ブドウスパークリングを採用。白ブドウの果実味が感じられながら、余計な甘さのないスッキリとしたクリアなおいしさを実現している。オープン価格で350ml缶と500ml缶を用意。

麒麟ホールディングス(2503)グループの麒麟ビールは、糖類・甘味料を一切使用せず仕上げた、甘くなく果実味が引き立つ「麒麟 氷結無糖」シリーズから、「麒麟 氷結無糖 白ブドウスパークリングALC.7%」を、6月25日から期間限定で発売する。

3月に発売し好評を得ている「麒麟 氷結無糖ウメALC.7%」に続く第2弾となる。

## イーグルス夏スタ!を開催

楽天グループ

### 2万名にユニフォームプレゼント



EAGLES SUMMER 2024ユニフォーム

楽天グループ(4755)の楽天野球団は、7月26日(9月1日に楽天モバイルパーク宮城で開催する一軍公式戦において、「夏スタ!」真夏のクリスマス」を開催する。今年の「夏スタ!」は「真

夏のクリスマス」をコンセプトに「巨大クリスマスツリー」「サンタクロース」が真夏の楽天モバイルパーク宮城に登場する他、クリスマスソングが流れ、スタジアムはクリスマスムードに包まれる。毎年大人気の花火やプールに加え、今年も中学生以下の子供にクリスマス柄の法被をプレゼントする。暑い夏でも、厳しい闘いのなかでも、理を持ってCOOLに闘うことをイメージし、全体的に落ち着いた色合いの「EAGLES SUMMER 2024ユニフォーム」を先着2万名様にプレゼントする。

企業レター

## 潮流

## 市場と対話できない日銀

## 間違った政策なら大きなダメージ



日銀の植田総裁は6月14日の金融政策決定会合後の記者会見で、

国債買い入れについて「減額する以上、相応の規模となる」と語った。さらに植田氏は「7月会合までの情報次第で短期金利の引き上げは当然あり得る」と発言。金融政策運営を巡り「経済・物価見通しが上振れたり、上振れリスクが高まる場合も利上げの理由になる」と説明した。

日銀は次回7月30～31日の会合で今後1～2年程度の具体的な減額計画を決定する。今夏以降に保有国債を減らし、事実上の量的引き締め（QT）に移行する。市場関係者は7月の利上げは予想していなかったが、植田氏の利上げ発言で株式市場に警戒感が強まった。

14日の大引け後、植田総裁の会見が始まってからイブニング市場で日経225先物は3万8800円台から3万8200円台まで600円急落した。翌営業日、6月17日の日経平均は800円超急落し、3万8000円の大台を割り込んだ。

植田総裁は自分の発言内容が市場にどの程度影響を与えるか分かってないようだ。4月26日の金融政策決定会合後の記者会見では記者から「円安の基調的な物価上昇率への影響は無視できる範囲だったという認識でよいか」と問わ



れると、植田氏は「はい」と答えた結果、1ドル＝160円台まで円安が進み、政府・財務省との認識の違いを露呈した。岸田総理からも指摘されたようで、その後の植田氏の発言内容は明らかに自分の考えと違っている。

日銀総裁が市場から信認されなくなると株式市場にとって大きなマイナスだ。物価や金融システムを安定化させるために日銀は金融政策の運営を担っている。日銀総裁が間違った政策を行えば、日本経済に大きなダメージを与える。1990年のバブル崩壊後の日本経済の衰退、失われた30年は日銀と政府の間違った金融・財政政策が要因である。

一方、米国では中央銀行であるFRBに対する市場からの信頼は非常に高い。FRB議長は市場の動きを注意深く見ながら金融政策を打ち出す。市場との対話が求められるのだ。アメリカの株式市場が過去最高値を更新し続けることができている大きな要因である。市場との対話が出来ていない植田総裁の発言に市場は神経質になりそうだ。

潮流銘柄はピー・シー・エー（9629）、ウェルネット（2428）、三洋工業（5958）。



にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。<http://marketbank.jp>

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール  
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

## 植田総裁発言へ神経質に



敬腕先物ディーラー

# ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約218円安と反落した。週足では月曜日の寄り付きが安くて始まったので陽線となっている。ここ2カ月間は3万8000円〜3万9000円に円のゾーンを中心に上に



日本ETFの月間資金流出額は2007年7月以来の規模

日興リサーチによると、日本ETFの5月月間資金流出額は全体で1兆2348億円と米サブプライ

抜ければ売られ、下に抜ければ買われるBOX相場の動きとなっている。この間、為替は円安に動いているが、3万9000円台に乗せると売りが急激に増え上値を抑えている。

# 日本株ETF 売り続くか？ 26週線割れ試す展開も

これらの動きを見ると5月からの上値の重さの説明はつく。どうやらこれらの利益確定分を吸収するまでは上値の重い展開は続くと思える方がよいだろう。  
また、大きく上昇する時は一旦下がって「カラ売り」が入った時が多いため、押し目買いが有効と思われる。先週は13週移動平均線（3万7936円）を上回ると売られ、26週移動平均線（3万7936円）に近づくと買われる展開であった。13週移動平均線は下落し、26週移動平均線は上昇してきており、今週はこの幅が更に縮まる。



ドル円の日足チャート  
先週は13週移動平均線（3万7936円）を上回ると売られ、26週移動平均線（3万7936円）に近づくと買われる展開であった。13週移動平均線は下落し、26週移動平均線は上昇してきており、今週はこの幅が更に縮まる。

先週までのように13週移動平均線を超えて利益確定売りが続くようであれば、26週移動平均線割れを試しに行く展開も想定できる。新値3万8000円。陰転すると暫くは調整局面の可能性もあるので注意したい。  
今週のレンジは3万7900円〜3万8900円を想定。為替が160円台に近づいており介入にも警戒、突っ込み買いに徹したい。（ハチロク）



先週までのように13週移動平均線を超えて利益確定売りが続くようであれば、26週移動平均線割れを試しに行く展開も想定できる。新値3万8000円。陰転すると暫くは調整局面の可能性もあるので注意したい。  
今週のレンジは3万7900円〜3万8900円を想定。為替が160円台に近づいており介入にも警戒、突っ込み買いに徹したい。（ハチロク）



# 記者の視点 相場見通し

## 新TOPIX候補に注目

### スタンダードやグロース銘柄

6月第3週の東京市場は17日に日経平均で712円超の大

えないうが、投げ売りをしている状況でもないということだ

幅安となったあとは戻す動きになったが、週の後半は3万8600円を超えるという戻り売りに押される展開で膠着感の強い動きとなった。週初めの急落に関してはフランスのCAC40指数の急落に絡む欧州勢の売りや日銀金融政策決定会合を悲観した売りなどが指摘されていたが、明確な理由は見当たらない。ただ、植田日銀総裁の会見中に長期国債の買い入れの減額が「相応の規模になる」と語ったあとはナイトセッションでの225先物が断続的な売りを浴びていたことから、日銀の今後の政策への不安が売り要因になったのかもしれない。出来高は薄いながらも3万8000円割れでは押し目買いの動きが活発化していることから、現状は積極的に上値を追

今週は海外では28日に米5月個人支出（PCE）が発表される。5月コアCPIに続き鈍化が確認されればインフレ低下から利下げ期待が高まろう。26日にはマイクロテクノロジーには24年3〜5月決算発表する。国内では24日6月13・14日開催の日銀金融政策決定会合の主な意見が発表される。今後

の利上げや長期国債の買い入れ減額などの今後の動向を探ることになる。注目されるのは新TOPIXの動き。日本取引所グループのJPX総研がTOPIXの見直しに関する新ルールを公表。対象を従来の東証プライムだけからスタンダードやグロースにも拡大する一方、浮動株や時価総額をはじめとする条件を基準に採用数を大きく絞り込むとした。MCJ（6670）や沖繩セルラー（9436）などが値を飛ばしており、今週以降も時価総額が大きな銘柄には思惑買いが継続しそうだ。



森・里・川・海は一つのもの。気仙沼市舞根湾では地域が連携して水源になる大川上流の室根山に植樹することで、カキやホタテなどの養殖業を発展させてきた。森が生み出すミネラルや植物性プランクトンを多く含んだ水が川から湾に流れ込み、海と生き物を豊かにする。気仙沼の漁師が中心になって始めた植林活動は小・中学校の教科書でも取り上げられ、全国的な運動へと広がっていった。株式市場が海なら企業業績は森といったところ。膠着相場も決算発表が始まれば動き出すかも知れない。

## 編集後記

### 当面のスケジュール

- ・24日 6月13・14日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」  
5月全国百貨店売上高
- ・25日 5月企業向けサービス価格指数
- ・26日 米5月新築住宅販売件数
- ・27日 5月商業動態統計  
米大統領選挙に向け、バイデン大統領とトランプ前大統領が候補者テレビ討論会開催見通し
- ・28日 5月失業率・有効求人倍率  
6月東京都区部消費者物価  
5月鉱工業生産  
米5月個人所得・個人支出・デフレタ
- ・30日 先進レーダー衛星「だいち4号」を搭載したH3ロケット3号機打ち上げ  
中国6月コンポジットPMI、中国6月製造業PMI、中国6月非製造業PMI
- ・1日 6月調査日銀短観  
6月消費動向調査  
中国6月Caixin 製造業PMI  
米6月ISM製造業景況指数
- ・2日 6月マネタリーベース
- ・3日 新紙幣発行  
米6月ADP雇用統計  
米5月貿易収支  
米6月ISM非製造業景況指数  
6月11・12日開催のFOMC議事録
- ・4日 休場: 米国(独立記念日)
- ・5日 5月家計調査  
5月景気動向指数  
米6月雇用統計

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らたいたかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。